

県が統廃合の 計画づくり

46校中25校が対象に

県立高校が10校なくなる



高校の体育祭 本文とは関係ありません

県民の 財産を

いま、県教育委員会は県立高校の統廃合計画をつくっています。秋にはこの作業を終えて、早急に実施に臨みだす意向です。どんな計画なのか、学校や子どもはどうなるのか、どうしたらいいのか、考えてみませんか。

7～12校がなくなる

県教委は、大幅な統廃合のために、学校の適正規模を「1学年4～8学級」から「6～8学級」に変えました。

この物差しを当てると、1学年5学級以下の25校が統廃合の対象になります。全日制46校の半分以上です。

生徒の募集枠を変えない場合は7つの高校が減ります。

また、公立を減らし公立と私立の比を7対3にすれば、12校が減り34校になります。

これは、子どもや学校に何をもたらすでしょうか。

学校の教育力落ちる

1つめは、大規模校が多くなり、学校の教育力が落ちます。子どもの発達にとって適正な学校規模は「5～6学級」です。その大き

こんなに減らして大丈夫か

さなら、学級担任が学年の全クラスの授業に入れます。子ども同士もつながることができます。

県は、子どもの減少を統廃合の理由にします。

確かに生徒は減りましたが、それは理由になりません。ピーク時は、マンモス校だけで、体育館には全員が入れず行事や部活動で、みんなガマンしました。今は、生徒が減り、学校はちよんどうよい状態になりました(下のグラフ)。マンモス校に戻す必要はありません。

高校に行けない子が

2つめは、貧困が広がる中、公立の募集が減れば、希望しても高校に行けない子どもが増えるでしょう。大阪では、09年度の高校入試で、公立の募集定員が少なく、167人が高校に行けなくなり、再試験を実施しました。

若い先生が減る

3つめは、学校が減れば、その分先生が要らなくなり、新規採用が減らされます。学校では若い先生が少なくなり、年齢層が中高年にかたよります。

これまで、県立高校の先生の採用が減られ「高齢化」が深刻です。09年現在、全県で20代の教諭はわずか36人(1・8%)です。若い担任やクラブ顧問がおらず、ある学校では、生徒が「うちはおじいちゃん学校だ」と言います。

競争さらに激しく

4つめは、全県一学区で激しくなった入試競争と学校の序列化がさらにすすみます。近くの学校が消え、通学の時間や費用が増えます。地域と高校のつながりが薄れます。

声を



地域や校長さんの声

統廃合の動きを知ったある校長先生は「何故こんな事をするのか。地域の人が無言無言」と話します。「地域の学校をみんなでつくる」とPTA、町長、教育長と一緒に行動する自治体もあります。

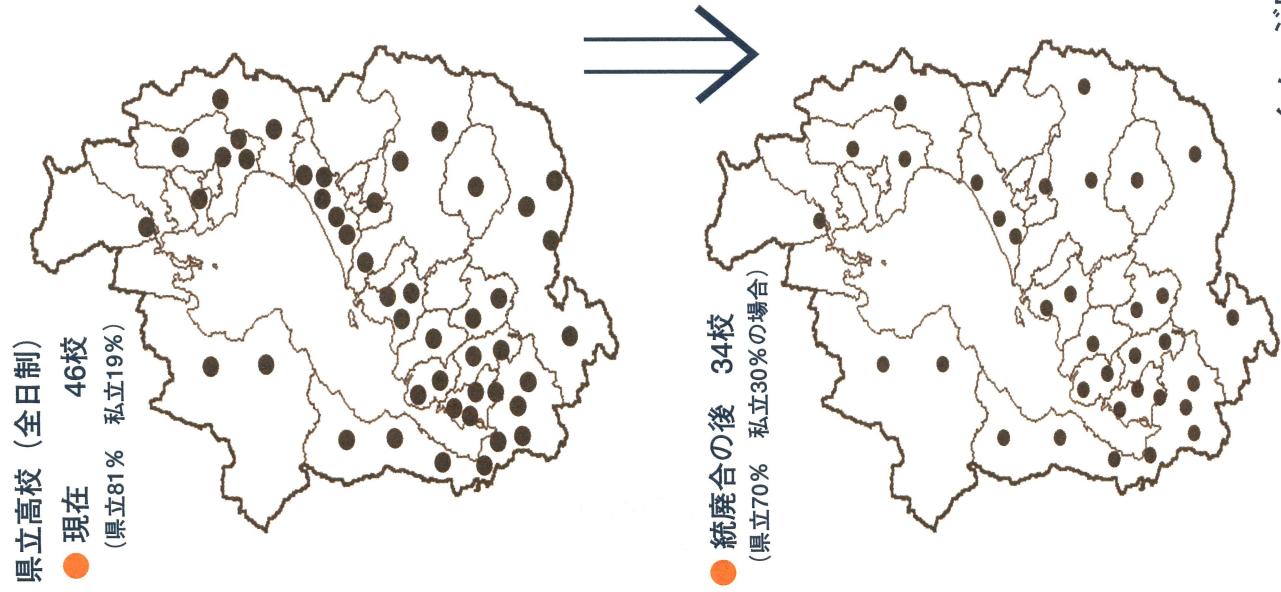
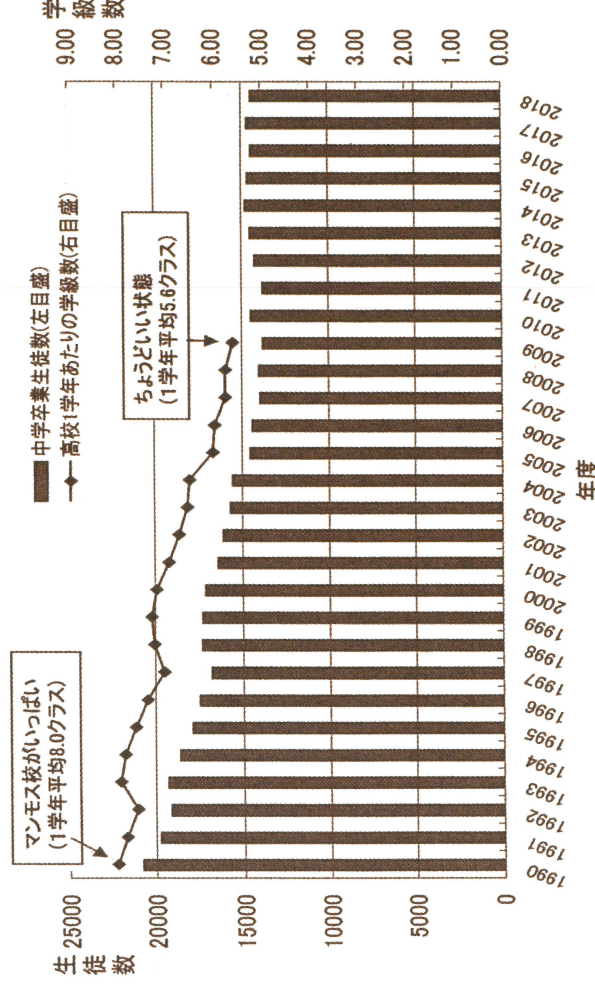
06年知事選挙のマニフェストで「高校の統廃合はしない」とした嘉田知事の態度が注目されています。

滋賀の子どもたちの未来を決める問題です。一緒に声を上げませんか。

統廃合の対象25校 (09年度現在)

堅田 北大津 草津 栗東
守山北 湖南農 野洲
石部 甲南 信楽 八幡
八幡商 日野 八日市南
能登川 愛知 彦根西
彦根翔陽 伊吹 長浜農
長浜北 長浜 長浜北星
虎姫 伊香

※ 学校の適正規模を「1学年6～8クラス」にすると5クラス以下の学校が統廃合の対象になります。クラス数は年度により少し増減します。



嘉田知事のマニフェスト(2006年5月)

- 2007年度からすべての小中学校を35人学級にし、5年後に30人学級にする。
- 北部・西部の高校は1クラス35人以下に、東部・南部の高校も必要に応じて1クラス35人以下にする。
- それぞれの地域の地域の人々に支えられた特色ある県立学校にするため、学科、定数を地域の意見を聞いて再編します。ただし、高校の統廃合は行いません。

発行

県立高校の統廃合を考える会

〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目11-3
教育文化会館内

Tel. 077-522-4965
Fax. 077-522-4978

